

## 県民提案型協働創出事業 中間報告書

令和6年8月24日現在

実施団体名	特定非営利活動法人あきた子どもネット		
取組事業名	青少年に対する県内の魅力と将来を繋げるアプローチ事業		
採択年度	令和5年度（2年目）	採択申込金額 （3年間）	3,300,000円
事業概要			
<p><b>1 地域課題と事業目的</b></p> <p>(1) 課題</p> <p>高校生に対するアンケートにおいて、他県の人に薦めたい秋田県の魅力としてもっとも高い割合を占めていたのが「自然環境」であり、次点で「伝統芸能・祭り・イベント」、「人の良さ」と続く。「なし」と回答したのは全体の1割にも満たない、という結果である。引用：「若年者の県内定着・回帰等に関する意識調査」報告書(最終版) p.41(令和4年1月 秋田県)</p> <p>しかしながら、このような魅力を感じつつも、若者が県外へ流出したり、秋田との関係が薄れたりしてしまう原因として、「それらの魅力と自分の将来との関係性が見いだせない」ところにあると考える。また、同様のアンケートより、「将来秋田に住みたいと思わない」と回答した理由として「希望する学部・企業の有無」というのがもっとも高い割合を占めている。引用：「若年者の県内定着・回帰等に関する意識調査」報告書(最終版) p.27(令和4年1月 秋田県)</p> <p>そして、「将来も秋田に住みたいと思う」と回答した理由としてもっとも高い割合だったのは「家族（実家）のそばに住みたいから」がもっとも高い割合であった。引用：「若年者の県内定着・回帰等に関する意識調査」報告書(最終版) p.23(令和4年1月 秋田県)</p> <p>これらの内容を踏まえると、自然や文化といった秋田県魅力を伝え、体感してもらうことは重要であるが、それのみでは県外進学後も秋田県に関わり続ける・将来的に県内に定住する若者を増やすことは難しいと考える。</p> <p>故に、青少年たちが秋田県に関わり続けるようにするためには、秋田に現存する魅力と自らの将来を結び付けられるようなきっかけづくりが必要であると考えます。</p> <p>(2) 目的</p> <p>秋田の魅力と自分の夢や得意分野、将来との結び付き、また魅力に携わる人の人物像や仕事内容などを主体的に感じる事で、将来的に秋田へ関わろうとする意欲が芽生えると考え、当事業は、青少年たちに秋田県魅力を伝え、体感しそれらを彼らが主体的に発信し、将来的な秋田県との関わり方を考えるキッカケを掴んでもらうことを目的とする。</p>			
<p><b>2 事業内容（課題解決の方法）</b></p> <p>青少年が将来的に秋田県と関わり続けたいという意識を作り出すためには、</p> <p>I 秋田県で魅力を生み出す人々との触れ合い、関係づくり</p> <p>II 現代の青少年の特性・能力を活かした活動とネットワークづくり</p> <p>をセットで行う必要があると考える。</p> <p>I 秋田県で魅力を生み出す人々との触れ合い、関係づくり</p> <p>青少年が秋田県に将来的に携わることを考えられるような魅力の伝え方として、その魅力に携わる現場で活躍している人、働いている人たちとの触れ合いやつながりを作ることが重要だと考える。</p>			

そうすることで、自分が将来秋田県で働くイメージや「将来地元で貢献したい」という意思を持つ青少年のモチベーションを高めることができると考える。

また、「将来〇〇という職に就きたい」、「将来〇〇のジャンルで活動していきたい」という具体的な構想を持っている青少年に対しても、自分の夢や願望を通じて、どのように秋田県で働けるか、活動できるか、というイメージを作ることができると思う。

そして、現場に携わっている人々の熱量が伝わることで、より「秋田の魅力、人々に関わりたい」という気持ちを作り出していくことができると考える。

## II 現代の青少年の特性・能力を活かした活動とネットワークづくり

I で経験したり、得られたりした知識や考えを参加者の希望やスキル等に応じた形で発信していく。

当事業用 SNS や YouTube チャンネル、note といったオンラインプラットフォームでの発信、印刷物やプレゼンなどのオフラインでの発表など、様々な手段がある。

I の活動の先に「発信」という目的を持つことで、主体的に魅力や考えを整理する必要が出てくる。それにより、興味や関心を更に深めることができると考える。

また、当事業に参加した青少年たちをオンラインツールやチャットツールでコミュニティ化する。

オフラインでの活動はもちろん、オンライン上での活動は現代の青少年の特性を活かしたものと言える。

このツール内には、青少年のほかに、活動で携わった方々や事業運営チームを加え、持続的な情報アプローチや交流を行っていくことで、活動が一過性のものではなくするように働きかけを行う。

## 3 実施スケジュール

<令和5年度>

- 10月 県担当者様との打ち合わせ 協働についての確認  
企画策定会議 WEB 会議にて講師陣と開催 企画場所等の検討及び選定・内容の取り纏め 協働先の選定 確定案4案 検討2案にまとめる。
- 11月 協働先とのアポイント 企画内容の提案  
計画策定会議 WEB にて開催 協働先の調整により4案に決定  
協働先へ県の協力いただく旨 依頼文の作成の協力依頼及び検討と策定  
陽気な母さんの店株式会社 訪問・相談
- 12月 一般社団法人白神コミュニケーションズ事務所訪問・打合せ  
チラシ完成版制作開始 完成に向け詳細情報等入れ込み WEB 会議にて協働計画の詳細策定 4案の企画についての詳細状況等取り纏め 協力先との詳細内容の報告  
陽気な母さんの店株式会社 訪問・ミーティング。

<令和6年度>

- 1月 児童会館にて集合会議  
取材内容 企画内容 協力依頼文の取り纏め 協力先の状況日程確認  
広報 番組制作等の依頼先選定  
ゲストハウス あわじ商店へ訪問協力先の状況確認
- 2月 陽気な母さんの店株式会社 zoom ミーティング

	協力先の状況とデータ等収集来期企画確認等
3月	報告書等の作成 防災学習館様との打合せ ZOOM イベントに参加チラシ配布「みんなのマーケット」にて
4月	講師秋田ケーブルテレビへ出演参加募集案内 本荘地区公共施設へチラシ配布、NPO 団体へのチラシ配布、参加のお願い 秋田経済新聞にてニュース性があるとのことでブナの木塾が掲載される。講師陣、及び職員参加
5月	スタッフ会議及びイベントへのチラシ準備作業、 ZOOM スタッフ会議及び県担当者様との協働事業状況報告
7月	スタッフミーティング会議状況等確認 消防学校訪問打ち合わせ状況連絡、男鹿水族館連絡状況等説明日程調整
	
8月	第1回海洋コース開催、男鹿水族館及び八郎瀧の事前情報提供を行い、参加者へのイメージ作りや取材対象等を検討させる形で講義を行った。 男鹿水族館訪問 裏側探検 及び取材を行った。 参加者4名
9月 10月	文化創造館にてパネル展示会を開催予定、相談イベントも併せて開催予定
11月～1月	各公共施設にてイベント風景の展示会を開催
2月	次年度のチラシ配布 イベント告知
4月	次年度事業スタート 前年度のコースをまとめた形とさらに候補を追加した形での活動の予定だが、現在検討中

#### 4 この事業で見込まれる成果

##### 1. 青少年が秋田県に対する愛着と将来的な関与意識を醸成し高めることが出来る。

現場で活躍する秋田県の魅力的な人々との交流を通じて、地域の魅力を実感し、自分自身がその一部になるイメージを持つことができ、これにより将来秋田県で働きたい、地元に貢献したいという強い意志を持つようになる。また、具体的な職業や活動分野に対する夢を持つ青少年に対しても、その夢を秋田県でどのように実現できるかというビジョンを提供することができる。

##### 2. 知識と経験の発信とネットワークの構築

参加者が自分達の得た知識や経験を様々な形で発信する事で、主体的に学びを深める事ができる。

例えば、SNS や YouTube、note オンラインツールやチャットツールを通じて、事業に参加した青少年同士や活動で関わった方々との持続的な交流を図る事で、地域との繋がりを強固にする事がで

き、これにより活動が継続的な関心と関与を促進する事が可能となりえる。

このように、青少年が秋田県に対する愛着を深め、将来的に地域に貢献したいという意識を持つことを目指すこの事業は、地域の活性化と持続可能な発展に寄与するものと考えられる。

## 5 主な役割分担と協働

<実施団体>特定非営利活動法人あきた子どもネット

<行政(県)>秋田県あきた未来創造部次世代・女性活躍支援課

<協働の取組>

- ・民間と行政という異なる立場からの意見を元に検討を進められた。
- ・行政機関の連携による受入対応ができており、初動に助けられた。

## 6 この事業の今後の課題と対応方法

### (1) 課題

#### **魅力を生み出す人々との触れ合い・関係づくりの課題:**

秋田県の魅力を深く理解し、将来的に関わり続けるためには、現場で活躍している人々との触れ合いや、つながりを作り出すことが重要だが、適切なタイミングや方法で青少年と現場の人々を結びつけることが難しい、またこれらの触れ合いが一過性のものにならず、継続的な関係性を築くための仕組み作りを考える必要がある。

#### **現代の青少年の特性・能力を活かした活動とネットワークづくりの課題:**

青少年がこの事業で得た知識や経験を効果的に発信するためには、オフラインの発表機会を作り彼らが主体的に情報を整理し、発信する意欲を持つことが期待されるが、適切なサポートや指導が不足すると、効果的な発信活動が難しくなるため、オンラインコミュニティの維持や活性化も重要な課題であり、持続的な情報提供や交流の場の確保が必要。課題解決には、今後青少年と地域社会、行政、事業運営チームが一体となって協力し、新たに持続可能な仕組みを構築することが必要と考える。

#### **集客方法の課題**

今期は集客方法に難航しており、望んだ参加人数に達していない為アプローチの仕方を改めて検討の必要がある。

### (2) 対応方法

#### **魅力を生み出す人々との触れ合い・関係づくりの課題の解決方法&集客方法の課題の解決方法**

**PR&マッチング企画** 青少年と交流イベントの開催。行った事業の活動を写真や動画にて展示演出し公共施設にてプチ報告会や展示会を行う。その際併せて進路(やりたいことや未来についての)相談をできるようにスタッフまたは講師を常駐させ相談対応を行い集客を行

う。

**現代の青少年の特性・能力を活かした活動とネットワークづくりの課題の解決方法:**

**講師によるメンター支援の導入:** 青少年が現場で活躍する人々との継続的な関係を築けるよう、講師による支援を検討。定期的な活動に関してサポートし見守ることで、信頼関係を深める。

**(参考) 公開報告会における主な審査委員講評**

- 水族館G A Oの体験に関して、単に楽しい部分を取り上げるだけでなく、職員の仕事場や表からは見えないところを見るといった裏側も体験させるというのは、良い内容だと感じました。
- 相当数のチラシ等を配布して参加者が少ないということは、何かを変える必要があるかと思えます。何を目的として誰に対して何をするのか、どこを課題と捉えどこを変えるのかといったところは、県ともよく議論しながら進めてもらうと良いのではないかと感じました。
- 引き続き、県との協働に取り組んでもらうことはもちろんのこと、取材先を始めとする関係機関などとも連携を深めながら、事業目的の達成を目指した今年度以降の取組も期待しています。